

期内皮細胞化, 軽度反応性変化と, 6ヶ月後の内膜増殖減少がみられた。ICE は完全な内皮細胞化がなく狭窄, 閉塞したが, SIS 装着の技術的問題と推測された。

#### 7. Nicorandil enhances myocardial tolerance to ischemia without progressive collateral recruitment during coronary angioplasty

(ニコランジルは側副血行を増加させることなく, 冠動脈形成術中の心筋虚血耐性を増強する)

坂井 賢哉

(創生医科学専攻・先進医療開発科学講座・分子病態制御内科学)

【目的】ニコランジル (Ncr) による PTCA 時のプレコンディショニング (PC) 効果を, プレッシャーワイヤーを用いた側副血行の評価と併せて検討した。

【方法】待機的に PTCA を施行した安定狭心症患者32例を対象とし, 無作為にバルーン拡張 (BI) 前に Ncr を静注した群 (N群, n=16) と対照群 (C群, n=16) の2群に分け, 両群とも3回の BI を行った。BI 中の最大 ST 変化 ( $\Delta ST_{max}$ ), ST 変化の総和 ( $\Sigma ST$ ), 胸部症状 (chest pain score), 最大側副血流量比 ( $Q_c/Q_N$ ) について比較検討した。

【結果】 $\Delta ST_{max}$ ,  $\Sigma ST$ , chest pain score はそれぞれ3回の BI により有意に減少し, また各値はC群に比しN群で有意に低値であった。 $Q_c/Q_N$  は BI 間, 両群間のいずれにも有意差は認めなかった。

【結論】狭心症における PTCA 時の Ncr の前投与により, 側副血行増加によらない薬理学的 PC が惹起されることが示唆された。

### 第463回

## 広島大学医学集談会

(平成14年6月6日)

#### —学位論文抄録—

#### 1. Increase in serum IgE levels following injection of syngeneic keratinocyte extracts in BALB/c mice (BALB/c マウスにおける同系ケラチノサイト抽出物の注射による血清 IgE レベルの増加)

山本 匡

(創生医科学専攻・探索医科学講座・皮膚科学)

【目的】アトピー性皮膚炎では血清 IgE が気道アトピーに比べて高いことや, その値が皮膚炎の程度としばしば相関することが知られている。そこで我々はアトピー性皮膚炎における血清 IgE の増加が皮膚由来の因子により生じる可能性を検討した。

【方法】ケラチノサイト・セルラインである PAM212 と KCMH-1 から可溶分画を抽出物として用意した。それぞれを同系である BALB/c マウスと CBA/j マウスの皮下に2週間隔で注射し, 各1週間後に採血を行った。2つの系統のマウスの経時的血清免疫グロブリンレベルと *in vitro* での脾細胞からの IgE の産生を ELISA にて測定した。血清 IgE の生物学的活性は RBL-2H3 肥満細胞の感作実験にて検討した。

【結果】PAM212 注射群では血清 IgE と IgG, そして IgG1 と IgG2b の増加が観察され, *in vitro* でも IgE 産生が見られた。その IgE は FcεRI への結合活性を有していた。また KCMH-1 注射群では抗体産生への影響はみられなかった。

【考察】PAM212 抽出物は抗体産生系において Th2 優位な方向へ影響を及ぼすものと考えた。

#### 2. 瀬戸内海の硬骨魚の半規管に関する形態計測学的研究

##### —特に運動能との関係

田村 聡一郎

(創生医科学専攻・探索医科学講座・組織学細胞生物学)

同じ魚類でも運動量や泳ぐ方向性の異なる種類では, その三半規管の形態は異なることが予測される。各種の魚の運動能と三半規管の形態との関係について検討した。

- 1) 頭部と三半規管の大きさには相関関係が見られたが, 頭部の大きさが 180 mm を超える群では, 三半規管の大きさは一定の値 (14.8 mm) を示した。
- 2) 俊敏な運動能力をもつ魚であるキス, メバル, アジでは, 各半規管のなす角度は直角に近い値を示